

一西だより

【心をととのえて】

12月は師走(しわす)と言います。古くから12月は僧侶が各地で法要を行うために非常にいそがしい時期とされました。そのため、「師が走る」月として、「師走」という名前が付けられたという説があります。年の瀬、あわただしくなっていく毎日ですが、皆さん一人ひとりが、心おだやかに新年が迎えられることを願っています。

年の瀬は周りの人への感謝の気持ちを伝えられる時期でもあります。よく使われる言葉は「良いお年をおむかえください。」や「今年もお世話になりました」といったものがあります。これらは感謝の気持ちを伝えつつ、新年への期待が込められた言葉もあります。身近な人の人、この人に、感謝の気持ちを伝えることで、自分の心にも余裕が生まれてきます。あわただしい今だからこそ、気持ちをととのえて、感謝の気持ちを伝えていけるといいですね。



【先生方のご努力に感謝しています】

チーム担任制は各学年3学級、約100人の児童の様子を3人(6年は4人)の担当が毎日把握して最適な支援を行っています。担任一人の個性や技量に偏らない支援ができる優れた面がある一方で、そのための情報共有にはこれまでの3倍の時間と労力がかかるとも言えます。

一西小の子どもたちはこれまでに比べて、学校生活に困り感を感じている子どもが少なくなっている印象を受けます。この陰に、これまでの3倍の努力が先生方にあることを忘れてはなりません。「学校にいるすべての子どもをすべての教員でみる」ことで、**どの子にとっても居心地がいい、自分らしさが認められる、楽しいことがたくさんある、やりたいことができる、学校に通う意味が感じられる**、そんな取組を続けるには、それにつながらない業務の絶捨離や改善が欠かせません。会議の簡略化、校時や行事の工夫、4月に行った下校時間の変更など、できる所から取り組んでおります。今後も継続的に行いますので、ご家庭と地域の皆様のご理解・ご協力をお願いします。そして、一人ひとりの先生方の献身的なご努力に、心から「ありがとうございました。」を申し上げます。



豊川市立一宮西部小学校通信

令和7年12月12日 第25号

発行;校長 村上謙一

【のりのりのプロジェクト活動】



12/3(水)ダンスプロジェクトが体育館でありました。今回は次々と変わっていく曲に合わせて、おどりたい人がステージに上がっておどるというもの。これまでに学年でとりくんだ思い出の曲やはやりのダンス曲が次々に流れて、体育館は大もり上がりでした。楽しいことがある学校って、すばらしいですね。

12/4(木)はマラソン

プロジェクトの2人の6年生が、先生方の企画会議に参加して、「こんなマラソン大会がしたい！」と



いう提案をしました。「順位がつく真剣勝負がしたい。でも、順位よりも楽しく走りたい人もいるから、順位なしの部門も作る。走ることが苦手な子も、むずかしい子も、だれ一人とり残すことのない大会をつくります。」そんな提案でした。先生方からのきびしい質問にも、しっかり答えることができました。やりたいことがあるからこそ、しっかり準備するし、どんな質問が来ても大丈夫なのですね。GOです。

学校新聞プロジェクトでは、第3号の発行に向けて、南校舎2階にある「なぞの階段」の正体を探る取材依頼がきました。もちろんOKです。ただし、安全第一なので先生と一緒にね。

やりたいことの実現をめざして、対話を重ねて工夫して準備をする。そして結果にも責任をもつ。この姿勢を「主体性」と言います。子どもたちはさまざまなプロジェクトに取り組んで、「主体性」を育んでいます。

【あきらめなければ夢はかなう】

12/9(火)、名古屋市のプロレス団体「スバルティーバエンターテイメント」にお越しいただき、目が見えないレスラーが、どのようにして夢をかなえてきたのかについて学びました。目が見えるレスラーも、見えないレスラーも、ハンディキャップによる「違い」をフラットにする心を共有していること。そして互いが同じリングで、遠慮なく、全力で戦っていること。そんなプロフェッショナルな姿勢に心を打たれました。

